

V17b 可視撮像分光装置 NaCS の開発：ファーストライト及び試験観測

中尾光、徂徠和夫、渡辺誠(北海道大学)、山田真広、伊藤洋一(神戸大学)、酒向重行、宮田隆志(東京大学)

我々は北海道大学 1.6m Pirka 望遠鏡のナスミス焦点に搭載する可視撮像分光装置 NaCS(Nayoro optical Camera and Spectrograph) の開発を行っている (NaCS の仕様については本年会の山田氏の講演を参照されたい)。

NaCS の開発は大きく 3 段階に分けて進められている。まず既存の ANDOR 社製 CCD(1k × 1k) を用いて試験観測を実施し、光学系など装置の全体的な仕様の確認を行う。次に浜松ホトニクス社製完全空乏型 CCD(2k × 1k) を取り付けて撮像観測装置として完成させる。最後にロングスリットによる分光観測装置として完成させる。昨年度から開始した製作は現在第一段階に達し、2011 年 5 月 21 日からの 10 日間でファーストライトを受けることに成功し、続けて試験観測を行った。なお、今回の試験観測時の視野は約 $3'.5 \times 3'.5$ (約 $0''.22 \times 0''.22/\text{pixel}^2$) である。

試験観測では装置の姿勢によってシャッターが閉まりきらない不具合があったものの、スループット、ピクセルスケールなどの測定ができた。また、いくつかの明るい銀河や星雲について試験画像の取得に成功した。

本講演では、これら NaCS のファーストライト及び試験観測の結果について報告する。